

2024

# 国語

## 注 意

- 試験時間は、8:50～9:40の**50分**です。
- 問題は ㊦ から ㊧ まであります。
- 解答用紙に、受験番号と氏名を書きなさい。
- 解答はすべて**解答用紙**に書きなさい。
- 先生の指示があるまで、問題用紙をあけてはいけません。
- 問題についての質問はうけつけません。
- 試験が終わったら、解答用紙を裏返しにしておきなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中学一年生の「マチ」は、自分の意見をはっきり言えない内気な性格を直したいと思っていた。夏休みが明けると、文化祭で発表する合唱の練習が始まった。「マチ」が所属するソプラノパートのリーダーは、「マチ」の小学校の頃からの友人である「琴穂」が務めることになった。

文化祭で歌う『遠い日の歌』の、ソプラノのパート練習。

オルガンで音を取りながら、一度通して歌い、二度目の練習に入る。すると、途中で、教室の後ろのドアが開いて、ソプラノのパートリーダーである琴穂が顔を出した。

「ごめん！部活の片づけで遅れちゃった」

オルガンを囲んでいたソプラノの女子が一斉に歌うのをやめて、声の方向を見る。琴穂が顔の前で手を合わせて「ごめんごめん」と言いながら駆け寄ってくる。

「本当にごめんね。今どこ歌ってた？」

①「——いいよ、もう一度最初からやろう」

すぐに練習が再開され、琴穂も加わったが、歌い始める前に、マチの後ろで「琴穂ちゃん、いつも遅れてくるよね」という小さな声が聞こえた。自分のことではないけど、ドキンとする。聞いてはいけない気がするのに、耳が勝手に声の続きを聞いてしまう。

「リーダーなのに、やる気あるのかな」

琴穂は、朝練習を遅刻することが多い。その上、放課後も部活を理由に早めに練習を切り上げ、他のみんなを残して先に教室を出て行ってしまうことがよくあった。

歌った後で、それぞれグループごと、自分たちの歌の悪い部分について話し合う。

教室の隅から、アルトの女子の声が聞こえてくる。自分たちのソプラノより歌声がまとまっているように聞こえて、このままじゃ合わせで練習したときに声量が負けてしまうのではないか、つられてしまうのではないかと心配だ。アルトのリーダーであるみなみの声が一際よ

く聞こえる。

マチがみなみの方を見ていると、琴穂が「ねえねえ」と話しかけてきた。てっきり合唱に関することだろうと振り向くと、いきなり「聞いてみた？」と聞かれた。

「何を？」

「みなみと恒河のことだよ。夏休み、自由研究一緒にやったんでしょ？ あの二人、つきあってるの？」

小声になって関係のない話をしようとする。

その言葉を聞いた途端、ふいに、マチの胸の中で②たくさんの感情が一度に揺れ動いた。

『リーダーなのに、やる気あるのかな』

さっき聞いたばかりの声を思い出したら、悲しくなった。本音を言えば、琴穂に真剣に練習して欲しいのはマチも同じだ。

「ちゃんと練習、しようよ」

とつさに飛び出した声で我ながら冷たく聞こえて、驚いた。③琴穂が「え」と短く声を出す。きよんとしたその表情を見たら、もう一押し、声が止まらずに出てしまった。

「しつかりやろうよ。琴穂、遅れてきたのに、関係のない話したり、全然、みんなに悪いと思ってる様子がないよ」

琴穂が目を見開いた。ショックを受けたのだと、表情でわかった。わかった途端、喉元が苦しくなって、それから全身が熱くなる。顔を伏せて、琴穂から離れた。

ややあって、背後から「わかった」と琴穂の声が答えた。思いがけず素直な声だったせいで、琴穂が沈んだ様子なのが、振り返らなくても伝わってくる。マチが返事をするより早く、「じゃ、もう一度ね」と他の子の声が出て、歌の練習がまた始まってしまう。

④声がうまく出なかった。息が苦しかった。

練習が終わった後で様子を見ると、琴穂は顔を俯けながら席に戻るところだった。マチの胸を小さな痛みがちくりと刺した。そのとき、「マチ」と呼びかけられた。さつき、琴穂の遅刻を責めていた子たちだ。

「琴穂のこと、ありがとう。マチみたいなまじめない子が注意してくれると助かるよ」

こっそりと囁くような声に「ううん」と首を振る。感謝されるようなことは何もない。黙って一人で席に着いた琴穂のことが気がかりだった。

(中略)

文化祭が終わると、教室内の空気は十二月の新人戦に向けて緊張感を高めていくようだった。夏の大会ではまだ出場できなかった一年生の中にも、新人戦なら活躍できる子が出てくる。マチたちの科学部は関係ないが、運動部の子たちはみな、忙しそうだった。

放課後の教室にも、部活の話題が増えていた。運動部の子たちの顔が X なししか興奮して見える。大変そうだけど、楽しそうさ。

そんな中、ジャージに着替えたみなみがすまなそうに話しかけてきた。

「マチ、今日のことなんだけど……」  
科学部に行くしたくをしていたマチは、すぐにピンときた。夏休みに約束して以来、マチとみなみは高坂紙音の家を一緒に訪ねる機会が多くなっていた。お互いに部活がある日を選んで待ち合わせるのが当たり前になっていたので、今日も紙音の家と一緒に行くつもりだった。

みなみが言った。

「紙音のところ、今日は私一人で行くよ。陸上部、新人戦前でみんな張りきってるから、科学部よりも終わるの、遅くなると思う」

「そうなんだ」

「うん。——紙音の家に行くのも、今日はだいぶ遅くなっちゃうんだけど」

文化祭の合唱練習の間も、みなみとマチは紙音の家を何度も訪ねた。しかし、応対に出てくるのは最初の日と同じように、いつでも紙音のお母さんだけだった。

一学期の最初、マチの制服のしつけ糸を切ってくれたあの子は、今、一人きりの部屋で過ごしているのかもしれない。そう考えると、胸の奥がきゅつとなる。

「私、一人で行こうか」

マチが言うと、みなみがびつくりしたように「え」と呟いた。

「高坂さんの家なら、何度もみなみちゃんと一緒に行ったら、私一人でも大丈夫だよ。みなみちゃん、新人戦の準備で忙しそうだし、明日も朝練があつて早いんでしょ？」

「そうだけど、マチを一人で行かせるのは悪いよ。遠回りになるし」

みなみが断りかけたとき、思いがけず、背後から「私、行くよ」という声がした。振り返って、驚く。  
琴穂だった。

マチとみなみは <sup>⑤</sup> 思わず顔を見合わせる。そんな二人に向け、琴穂がさらに続けた。

「私がマチと一緒に行く。今日はバスケット部、陸上部ほど遅くならないと思うから、ちょっと待っていてくれれば大丈夫だよ。私にまかせて、みなみは部活に行つて」

「助かるけど、でも」

みなみの声を遮るように、琴穂がすばやく首を振り動かしした。

「みなみってさ、しっかりしてるのはいいんだけど、一人でたくさんのことを抱えこんでがんばりすぎるんだよね。そんなんじや、いつか参っちゃうよ。——今年の新人戦、陸上部の他の子に聞いたけど選手になれそうなんですよ？」

みなみの顔にはっとした表情が浮かぶ。琴穂がふう、と小さなため息をついた後で笑った。

「だったら、今はそつちががんばり時だよ。もつと頼つてよ。——これまで副委員長なのに全然頼りにならなかつたのは、私が悪かつたからさ」  
言いながら、琴穂がマチを見た。「マチに仕事、だいぶ頼っちゃってたし」と決まり悪そうに告げる。

「マチも、これまで、いろいろごめんね。私、部活を言い訳にしすぎてた。そんなこと言い出せば、みなみだって陸上部が大変なのに、委員の仕事したり、高坂さんの家、行ったりしてたんだもんね」

謝つた後で照れくさそうに目を伏せた琴穂の前に、みなみがとまどうような表情を浮かべる。ややあつてから、**b** おずおずと「いいの？」と琴穂を見た。

「頼んでも、平気？」

「うん」

琴穂が Y を張つて頷いた。

一連のやりとりを驚きながら見ていたマチの頬がゆるんでいく。「ありがとう」とためらいがちにお礼を言うみなみを、とてもいいと思った。いつもしっかりしているみなみが自分たちを頼ってくれたことが、嬉しくなる。

琴穂と二人で紙音の家に向かう途中、マチは改めて琴穂に礼を言った。

「さつきはありがとう。みなみちゃん、嬉しかったと思う」

横を歩いていた琴穂が、「だって」と笑う。

「みなみ、完璧すぎるんだもん。あれ、本人何でもないふうにやってるけど、結構大変なはずだよ」

「私も実はちよつとそう思ったことがあつたけど、言い出せなかつたんだ。琴穂が言ってくれてよかった」

「うーん。みなみ、たぶん、自分が無理してることに気づいてないんじゃないかなあ。自分のことって、かえってなかなか気がつけないよね。私もそうだったし」

琴穂が「ごめんね」と頭をかく。

「私も合唱の練習、リーダーなのにちゃんとやってなかった。マチに注意されてはっとしたの」

「私こそ、あのときはキツイこと言っちゃってごめん」

あわてて謝ると、琴穂が「そう？」と首を傾げた。

「全然キツくなかったよ。むしろ普段おとなしいマチから言われるなんて、私、よっぽどだったんだなって反省した。——なんか、ありがとね。陰でこそこそうんじゃなくて、面と向かって言ってくれたから、かえって気分よかったよ」

「そんな……」

頬がかあつと熱くなった。

——はつきり自分の意見が言えない性格を直したい。

今年の四月、マチが中学校に入学するにあたって目標にしたことだ。その一歩が踏み出せたようで⑥胸の奥がじん、とあたたかくなる。

(辻村深月『サクラ咲く』による)

(注1) 高坂紙音：不登校の同級生。マチとみなみは学校からの連絡事項を伝えるために、ときおり紙音の家を訪れていた。マチは二期になったらまた紙音の家に行こうとみなみと約束をしていた。

問一 波線部 a・b の言葉の意味としてもっとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

a  
ふいに

ア だんだんと  
イ 想像通りに  
ウ 突然とつぜん  
エ 無意識に  
オ すぐに

b  
おずおずと

ア かしこまって  
イ 期待をこめて  
ウ 無遠慮ぶえんりよに  
エ 凶こ々しく  
オ ためらいながら

問二 傍線部①「——いいよ、もう一度最初からやろう」とありますが、このせりふから読み取れる心情の説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア みんなから嫌きらわれているのに、それに気づきながら改善しようとする様子が見られない琴穂を不快に思っている。  
イ 一生懸命いっしょうけんめいみんなで合唱の練習をしていたところに、突然それを遮るように琴穂がやってきたことに驚いている。  
ウ 練習にいつも遅刻してくる琴穂に対して、パートリーダーとしてどのような言葉で注意しようかと悩なやんでいる。  
エ パートリーダーであるにも関わらず、自覚が足りず練習に遅刻してくる琴穂の無責任さに対していら立いらだっている。  
オ 琴穂がようやく部活を終えて合唱の練習に来てくれたことに安堵あんどし、一緒に練習できることに喜びを感じている。

問三 傍線部②「たくさんの感情」とありますが、ここに含まれる感情としてふさわしくないものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。  
ア 悲しみ    イ 嫉妬    ウ 怒り    エ 失望    オ 不愉快

問四 傍線部③「琴穂が『え』と短く声を出す」とありますが、それはなぜですか。四十五字以内で説明しなさい。

問五 傍線部④「声がうまく出なかった。息が苦しかった」とありますが、それはなぜですか。六十字以内で説明しなさい。

問六 空欄X・Yに当てはまる漢字としてもっとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア 胸    イ 身    ウ 気    エ 心    オ 目    カ 顔

問七 傍線部⑤「思わず顔を見合わせる」とありますが、その理由としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 今まで部活動を言い訳に無責任な言動をしていた琴穂が、自らみなみの代役を買って出たことに二人とも驚いたから。

イ みなみが紙音の家に行くことができないために二人は困っていたが、代わりに琴穂にお願いするのは名案だと思ったから。

ウ 無責任な行動で信頼を失ったにもかかわらず無自覚な琴穂に気まずさを覚え、どのように断るべきかと二人で困惑したから。

エ 今さらパトリーダーとしての失敗に責任を感じ、誰かのために行動しようとする琴穂に二人そろってあきれ果てたから。

オ 琴穂が気をきかせてくれたことは嬉しいが彼女のことを信用できず、どちらが断ろうかとお互いに探り合っていたから。

問八 傍線部⑥「胸の奥がじん、とあたたかくなる」とありますが、このときのマチはどのような心情ですか。その心情に至った過程も含めて七十字以内で説明しなさい。



問九 本文の特徴の説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 擬音語を多く用いることで、音楽というテーマを中心に展開する物語をいっそう豊かに表現している。
- イ 登場人物同士の会話を中心に展開しており、その中でマチとみなみの関係性の変化を細やかに描いている。
- ウ マチの視点に沿った物語でありながら、マチだけでなく琴穂やみなみの心情をも鮮明に描写している。
- エ 「……」や「――」を使い会話に空白を作ること、読者に登場人物の心情をより具体的に示している。
- オ 「くた」と過去を表す文末を用い、マチが目標を達成するまでの出来事をマチ自身が回想的に語っている。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

### 人は国籍や文化、宗教などの違い以上に、個性の差が大きい

人はそれぞれ生まれも育ちも違う。だからこそ、考え方も価値観も習慣も、あれこれ違ってくるのは当然だ。

これは至極、当たり前のこととして理解しているつもりではあるけれど、当然であるがゆえによく忘れがちになることもある。ときに人は、①この大前提を脇に置き、人間関係のなかで本来は無用であるはずの怒りや不安を相手に抱いてしまうことがよくある。

私は、これまでさまざまな国の人たちとともに仕事をしてきた。とくにISSの運用は15カ国が参加する国際協力プロジェクトだ。各国の科学技術政策に基づいて進められてきている計画であるから、当然そこには国策による利害関係も影響してくる。各国の宇宙機関に属する宇宙飛行士たちは、それぞれの国の政策を背負ってISSのプロジェクトに参加しているという意識を強く持っている。

それゆえ、お互いの国の違いをまったく意識しなくなる、ということはある。これが完全に民間レベルの活動で多国籍企業が参加するようなプロジェクトであったなら、国の違いよりも各企業の文化や利害の違いが支配的になるのだろう。

しかし、私がこれまで多国籍の人々と仕事をしてきた経験から言えば、人が誰かと付き合うときに生じる相違点には、国や企業、人種や文化、宗教などの違い以上に、個人のオリジナリテイの差が圧倒的に影響している、と強く感じる。

②「殻」の部分にしか相当せず、人の思考や行動パターンの大部分を占めるのが卵の「中身」、つまり個性と私はとらえている。

そのように考えると、何か意見の相違があったときに、「この人はアメリカ人だから、こう考えるんだ」とか「この人はこの宗教だから、そう言うんだ」というような「殻」の部分だけでステレオタイプに相手を判断しようとする、本質的な状況分析の妨げになる。

これは日本人同士で仕事をする場合でも同様だ。会社ごとに企業文化は異なるし、同じ会社の人間同士でも部署や役職が違えば立場や役割も変わる。すると、その属性によって思考や行動パターンも異なってくる。

b、出身地、幼少期からの家族構成、学校生活、スポーツや音楽活動など、どのような集団活動に参加してきたかなども、その人の考え方や行動に少なからず影響を与える。とは言え、それらも「殻」の部分であって、最終的にその人の思考や行動パターンを形成するのは、個性によるところが大きいように感じる。

ただし当然、さまざまな国々の人と一緒に仕事をしていくなかでは、相手の国の習慣、文化、言語、歴史などを知ることがも大切だ。比較文化論ではないが、相手がどんな背景で育ったかを知ること、相手を多少なりとも理解する助けになるからだ。

### 「違う」を認め、「違い」を生かす

コミュニケーションとは、異なる個性と個性が交流し、よりよい関係を築き、チームとしてうまく機能していくために必要なプロセスとも言える。自分の卵の殻を破って、自分自身を相手にさらけ出す。同時に、相手には先入観を排除して心を開き、いわば腹を割って相手を理解しようと努める姿勢が不可欠だ。

「何を言っているんだろう?」「何でわかってくれないのだろう?」と、こちらが相手を責めるとき、得てして相手も同じように感じているものだ。いったん③自分の意見を横に置いて、相手の立場に立って、相手の考えや意図を理解するよう努めてみることから「相互理解」はスタートする。相手が発信しているものをきちんと汲み取る。いわば、相手が投げたボールを一度キャッチしたうえで、投げ返す。この繰り返しだ。

それはもちろん、手放して相手に賛同するということではない。考え方の相違があれば、自分の意見をきちんと伝えればよい。逆に、そこですぐに溝が埋まらなくても、意見の相違を発展的にとらえることが大切だ。相違を知ることが、④自分が新たな視点を得られるいいチャンスと考えれば前向きにもなれる。そのような姿勢を通して、相手との違いを認識しながら、お互いの個性の違いを尊ぶ気持ちも生まれるのではないだろうか。

コミュニケーションは、まず「相手と自分は違う」という認識が出发点である。また、組織においては、チームに存在するそれぞれの「違い」

によって、作業の効率性の向上や、ときには大きな問題に直面した際に、突破口につながるさまざまなアイデアが生み出される可能性もある。「違い」は、チーム全体としての能力をより高めるための財産と考えるべきであろう。さらに言えば、何が違い、何が同じかという点を明確にしたうえで、メンバー全員の価値観のベクトルを、チームが目指すべき方向にまとめていくのがマネジメントに携わる者の役目だ。

私がISSでコマンダーを務めたときも、クルーにはそれぞれさまざまな「違い」があった。c、ベクトルは「ミッションの成功のために全力を尽くす」という同じ方向を向いていた。機能的なチームの必要条件の1つは、お互いの違いを認識し、1つの目的のために結束できることである。

### 国境のない宇宙だから感じたこと

私がコマンダーとしてISSに滞在していたときに、人間は個人の主義主張、国や文化、イデオロギーの違いを越えて協調できるものと実感したことがあった。

2014年2月末に、ロシア軍がウクライナ南部のクリミア半島を事実上、掌握し、クリミア自治共和国を一方的に編入した。同年3月9日、私がコマンダーに就任する直前にウクライナ危機が勃発した。アメリカを中心とする国際社会が厳しい経済制裁を科すなか、ロシアも応酬する結果となった。

欧米とロシアの緊張状態はISSでも決して無縁ではなく、とくにロシアとアメリカのクルーの間では問題に対する立場の違いがあり、わだかまりも生じていた。私は「今日は皆で一緒に夕食を食べよう」と声をかけ、食事をしながらこの状況について話し合った。

結果、あることに私たちは気づくのがあった。それは、クリミアを巡って緊張が高まっている地球上には、ISSにいる私たち6人はいない、ということだった。つまり、地上で緊張状態が続いているなかだからこそ、ISSにいる私たちがしっかり仕事をやる義務がある。宇宙開発の発展だけでなく、平和のためにも、私たちが一致協力して今の任務に集中してあたることが使命だ、という結論に達したのだ。そのため、私も含め6人のクルーは、「明日からも頑張ろう」という前向きな気持ちになれた。

こんなときに、当事国であるアメリカやロシアではなく、日本人である私がコマンダーを務めていることに、何かの縁を感じながら、「違い」を理解し合う大切さを実感した。

(若田光一『一瞬で判断する力——私が宇宙飛行士として磨いた7つのスキル』による)

(注1) ISS：国際宇宙ステーションの略称。りやくしやう

(注2) ステレオタイプ：型にはまった考え方。

(注3) 属性：そのものに備わっている性質。

(注4) ベクトル：ものの考え方の方向。

(注5) コマンダー：指揮をとる人。まとめる役目の人。

(注6) イデオロギー：人々の考え方や行動を根底で制限している信念や思想。

問一 空欄 a、b、c に入る言葉として適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

- ア また      イ だが      ウ なぜなら      エ ところで      オ たとえば

問二 傍線部①「この大前提」とありますが、どういうことを指していますか。本文中の言葉を使って四十字以内で答えなさい。

問三 傍線部②「『殻』の部分」とありますが、

(i) 本文中で説明される「殻」に当てはまらないものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 個人として信じている宗教  
イ 出身地や出身校  
ウ 文化や習慣  
エ 個人として持つ思考や行動  
オ 個人に影響を与える集団

(ii) 筆者は「『殻』の部分」だけで相手を判断することに対してどのような危険があると考えていますか。本文中から十五字以内で抜き出して答えなさい。

問四 傍線部③「自分の意見を横に置いて」とありますが、これはどういう態度のことを言ったものですか。その説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 自分の考えにこだわらずに、相手の考えを受け入れようとする態度。

イ 自分の考えに自信を持って、相手の言うことにも耳を傾けようとする態度。

ウ 自分の意見を捨てて、相手の考え方を新しく取り入れようとする態度。

エ 自分の意見の誤りに気づき、相手の正しさを認めようとする態度。

オ 自分の考えと相手の考えを比較して、両者の違いを見極めようとする態度。

問五 傍線部④「自分が新たな視点を得られるいいチャンス」とありますが、筆者はどのようなチャンスが得られると考えていますか。具体的に八十文字以内で説明しなさい。

問六 傍線部⑤「日本人である私がコマンダーを務めていることに、何かの縁を感じながら」とありますが、ここで筆者が感じたこととしてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 本来持ちこむべきでない国家間の対立を持ちこんだロシアとアメリカのクルーに対して、両者を客観視できる日本人だからこそ、両者の過ちを気づかせることができた。

イ 国家間の対立に影響を受けてわだかまりをもつロシアとアメリカのクルーに対して、異なる視点に立つことができる日本人だからこそ、クルーとしてすべきことを両者に問いかけることができた。

ウ 欧米とロシアの緊張状態の影響によって対立を深めたロシアとアメリカのクルーに対して、個人的な立場を優先できる日本人だからこそ、宇宙開発を優先すべきだと主張することができた。

エ ウクライナ危機の影響によって互いを否定し合うロシアとアメリカのクルーに対して、当事国ではない日本人だからこそ、平和の重要性を伝えることができた。

オ 大国であるために自己主張が強いロシアとアメリカのクルーに対して、多様なものを認めざるをえない日本人だからこそ、組織として使命を優先すべきだと納得させることができた。

問七 本文の内容の説明として適当なものにはA、不適当なものにはBを、それぞれ解答欄に答えなさい。

- ア 宇宙飛行士はそれぞれの国の政策を最優先にして、プロジェクトに参加すべきである。
- イ 相手の出身国の文化や歴史を知ることが、他者を理解する助けとなる。
- ウ 国際協力プロジェクトを推進するためには、各人の持つ個性を優先した方がよい。
- エ コミュニケーションで大事なのは、相手と自分が異なる存在であるという認識を持つことだ。
- オ 宇宙開発の発展だけを考えたからこそ、様々な国から参加するクルーが一致協力できた。

三

次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① 古い道具もていねいにシュウリして使い続ける。
- ② テスト問題はまず落ち着いてジユクドクしましょう。
- ③ 政治家たちがザダンカイで意見を話す。
- ④ ごはんのおかわりはヤマモリが良い。
- ⑤ 試合でヤブレれたので対策を考えよう。

[問題はここまです。]







注意

一字制限の問題では、句読点も一字として数えます。

②×5    ②×5 ④    ⑧    ④    ④    ③    ⑥    ②×3    ④    ⑧    ④    ②×2    ⑧    ⑥    ③    ④    ②×2

①	問七	問六	問五					問四	問三		問二			問一	
修理	ア	イ		る	に	の	性	相	ア	ii	i	然	の	人	a
	B			ア	直	作	を	手		本	エ	で	で	は	オ
②	イ			イ	面	業	尊	と		質		あ	、	そ	b
	A			デ	し	効	ぶ	の		的		る	価	れ	ア
熟読	ウ			ア	た	率	気	違		な		こ	値	ぞ	c
	B			が	と	が	持	い		状		と	観	れ	イ
③	エ			ま	の	上	を	意		況		。	や	生	
	A			れ	突	し	も	識		分			習	ま	
座談会	オ			る	破	、	つ	し		析			慣	れ	
	B			チ	口	大	こ	、		の			が	も	
④				ャ	に	き	と	互		妨			違	育	
				ン	つ	な	で	い		げ			う	ち	
山盛(り)				ス	な	問	組	の		に			の	も	
				。	が	題	織	個		な			は	違	
⑤										る			当	う	

問九	問八					問七	問六	問五					問四		問三	問二	問一
ウ	を	る	の	を	合	ア	X	を	と	な	リ	を	が	普	イ	エ	a
	嬉	と	意	か	唱		エ	抱	で	い	し	し	な	段			ウ
	し	い	見	え	に		Y	い	落	琴	ダ	て	い	か			b
	く	う	を	っ	向		ア	た	ち	穂	し	き	マ	ら			オ
	思	目	は	て	か			か	込	を	と	た	チ	は			
	っ	標	っ	琴	う			ら	ま	冷	し	こ	が	っ			
	て	に	き	穂	態			。	せ	た	て	と	、	き			
	い	一	り	に	度				て	い	の	に	自	り			
	る	歩	言	感	を				し	声	責	驚	分	意			
	。	近	え	謝	批				ま	で	任	い	に	見			
		づ	る	さ	判				い	注	感	た	対	を			
		け	よ	れ	し				、	意	が	か	し	言			
		た	う	、	た					罪	し	見	ら	て	う		
		こ	に	自	こ					悪	た	ら	。	注	こ		
		と	な	分	と					感	こ	れ		意	と		

受験番号	フリガナ	
	氏名	

得点	
----	--